

学会録事

1. 日本藻類学会研究奨励賞 推薦委員会委員投票結果の報告

2007年1月1日から2008年12月31日を任期とする日本藻類学会研究奨励賞 推薦委員会委員選挙を2006年12月8日から12月21日にかけて実施した。その結果、下記の上位5名の方々が推薦委員会の委員として選出された。また、規定により最多得票者である石田健一郎氏が委員長に選出された。

石田健一郎氏 (筑波大), 本村泰三氏 (北大), 河地正伸氏 (国環研), 宮下英明氏 (京大), 田中次郎氏 (海洋大)

その後、平成18年度日本藻類学会研究奨励賞応募者との関係により委員長の石田氏が推薦委員を辞退されたため、本村氏に委員長を、次点の原 慶明氏 (山形大) に推薦委員をそれぞれ引き受けていただいた。

2. 2007年度日本藻類学会第1回持ち回り評議員会報告

2006年12月22日から27日の期間に第1回持ち回り評議員会を開催し (会長が2007年1月から長期海外出張のため、例外的に12月に開催), 下記の案件について審議した (国内評議員16名中12名から回答)。

小笠原諸島の海藻類の多様性調査について

小笠原諸島の海藻フロラ調査 (2007年度に小笠原諸島の海藻フロラ調査を実施し (調査経費は参加研究者が調達), その調査の成果となるフロラリストを、日本藻類学会の活動成果として報告し、広く活用してもらう) を日本藻類学会の事業として行うことが提案され、審議の結果原則として了承された。

3. 秋季シンポジウムの開催

2006年度日本藻類学会秋季シンポジウム「海藻と健康の展望—大学研究室からの報告」が、日本海藻協会の主催、日本応用藻類学研究会との共催により2006年11月18日午後1時から東京海洋大学講義室 (東京・品川) にて開催された。シンポジウムには約100名の参加があった。シンポジウムの内容は次の通りである。(1) 海藻資源からの糖鎖標的医薬素材・生化学素材・健康食品素材の開発: 堀 貫治 (広島大), (2) 現代の食事情における海藻の役割: 小川廣男 (海洋大), (3) 食感とレオロジー: 田代有里 (海洋大), (4) 海藻由来の健康機能性成分—タンパク質, 脂質由来の健康機能性成分を中心にして—: 佐藤 実 (東北大)。

4. 自然史学会連合

2006年度自然史学会連合総会 (2006年12月9日: 国立科学博物館自然史研修館)

<報告事項>

(1) 講演会の開催 (野村): 11月12日 (日) 11:00 ~ 16:30 に、神奈川県立生命の星・地球博物館において講演会を実施した。(2) シンポジウムの共催など (野村): 学術会議の公開講演会「博物館が危ない! 美術館が危ない! —指定管理者制度・公共サービス改革法の落とし穴—」の後援者として名を連ねた。(3) 博物館部会 (斎木・西田): 博物館活動に深くかかわっている加盟学協会会員からの意見を吸い上げ、学術会議などにおける議論に反映できる活動を目指す。また、兵庫県立人と自然の博物館基本構想に対するパブリックコメントの募集があり、西田が連合代表名でのコメントを送った。(4) ホームページ (篠原): ホームページの維持運営については、月2万円の経費を使って業者に委託しており、この経費が高すぎるとの批判もあるが、一般と比較すると格安であることは明らかであり、よりよく利用することを心がけるべきであると考えている。広く一般向けの記事よりもまず加盟学協会に必要な記事の充実を図りたい。(5) 大学における学会会場費値上げ問題 (西田): 以前に行ったアンケート調査の結果→配布資料。データが必ずしも十分でなかったことと、意見書を出すタイミングを逸してしまったことから、次回をにらんで情報収集中。(6) その他 (野村): 自然史学会連合は日本学術会議第20期の協力学術研究団体として登録された。

<審議事項>

(1) 2005年度会計決算の報告 (山田): 支出項目名「シンポジウム開催費」を「講演会開催費」に訂正。(2) 監査報告, 承認 (野崎, 池田): 野崎, 池田両監査役員出席により、決算が適切に処理されていることが報告され、承認された。(3) 2006年度会計経過報告 (山田): 2005年度決算と同じく支出項目名を訂正。(4) 2007年度予算案の承認 (野村, 篠原, 山田): 予算案を審議するに当たって、来年度の活動方針案が示された。従来のシンポジウムの後継である講演会の開催を活動の一つの柱として力を注ぐ。活動が停滞気味であった博物館部会の新体制作りを急ぎ、具体的な活動方針を確立する。ホームページについては前述のような方針で、整備を進めていく。これまで予算項目にあった「自然史教育展開プログラム」と「自然史研究機関立案アクションプラン」はここ数年、支出ゼロが続いているため、項目を削除し、予算は予備費に回して、より融通の利く態勢とする。この後予算案が示され、2005年度決算と同じく、項目名を訂正した後、承認された。(5) 2006~2007年度運営委員, 役員 (西田): 昨年の総会で承認された運営委員のうち、森田氏は運営委員としての時間が取れなくなってしまったため、斎木氏と交代した。代表指名の運営委員として、藤井氏を任命した。以上、報告の上、承認された。(6) 連合運営規則の改定 (野村): 学術会議の体制変更のため、連合運営規則第3条の文言に訂

正が必要になった。また、新規加盟を希望する団体が、総会での承認までの間長期間待たされるのを避けるため、「連合の総会で審議する」という文言を変更することが提案され、出席学協会全員の挙手をもって承認された。(7) 新規加盟学会の承認：6月に新規加盟の希望のあった日本地衣学会の加盟が承認された。当学会は申請の時点にさかのぼって加盟と認める。(8) 来年度講演会の予定(野村)：滋賀県立琵琶湖博物館で開催することについて内諾を得ている。時期は今年度と同じ頃としている。再来年度以降については、もし加盟学協会員から開催場所の提案があれば検討したい。(9) その他：日本生物地理学会 向井貴彦氏から出席者へのお願い。岐阜県では周囲に自然史系の博物館がほとんどなく、多数の愛好家にとって情報交換や教育普及の場所がなく、大変不自由している。地域の声を集め、博物館設立の要望を出すに当たって、効果的な方法や手続きなどについてご存知の方がおられたら、是非ご教示いただきたい、とのこと。

5. 日本分類学会連合

第6回総会(2007年1月7日：国立科学博物館新宿分館)およびシンポジウム(2007年1月8日：東京学芸大学)が開催された。

<報告事項>

(1) 庶務(佐々木)：2006年の主な活動は、第5回総会の開催(1/7)、第5回シンポジウム「ミドリムシは動物？それとも植物：原生生物の不思議な世界」の開催(1/8)、日本におけるドイツ年記念シンポジウム「日独学術交流史—相模湾動物相調査の歴史と成果」の開催(1/9)、役員会の開催(4/15第16回、7/26第17回)、ニュースレターの発行、バーコード・オブ・ライフ協会との協力覚書の提出(5月)、海洋と生物164号の特集「日本分類学会連合と分類学の過去、現在、未来」の出版(6月)、科研費研究成果公開促進費(データベース)の申請(11月)である。(2) ニュースレター(柁原)：ニュースレター9号を7月4日に、10号を12月28日に発行した。(3) ホームページ(山田：佐々木代理)：ホームページの更新は今後の検討課題である。(4) 日本産生物種数調査(柁原)：アンケートを行い、その結果をニュースレター10号に掲載した。(5) タイプ標本データベース(伊藤)：データベースの作成を継続中である。科研費(データベース)を申請した。(6) メーリングリスト(三中)：Taxa会員数は2006年末現在で797名である。昨年より43名増加した。(7) 国際動物命名規約日本語版(友国)：2006年は65部の注文があった。残部は約100部である。通算で約2100部を頒布したことになる。

<審議事項>

(1) 監査員の交代：新しい監査員を日本原生動物学会の松岡達臣代表、日本ダニ学会の後藤哲雄代表に依頼する案が承認された。(2) 2006年度決算・会計監査報告：2006年度決算案(一般会計、特別会計)の報告があり、監査員から決

算が適切に行われていることが報告された。収入は、分担金260,000円、受取利息76円、広告料50,000円、総会・シンポジウム152,000円、前年度繰越金938,315円、合計1,400,391円である。支出は、総会・シンポジウム213,644円、事務経費53,610円、特別会計へ立替100,000円、来年度繰越金1,033,137円、合計1,400,391円である。検討の結果、決算案は承認された。2006年度の分担金は5学会(日本貝類学会・日本蘚苔類学会・日本シダ学会・日本線虫学会・日本地衣学会)が未納であった。(3) 2007年事業計画 a) 2008年1月のシンポジウム案の検討：「後生動物の発生と系統」を中心に開催案の検討を進めることになった。b) ニュースレター：加盟学会紹介の記事は、全ての学会分を掲載したことになり、新しい企画が必要である。案として、(1) 加盟学会における最近のトピック、(2) 和文誌からの再録の掲載を検討することになった。c) ホームページ：コンテンツを充実させるための組織が必要であるとの指摘があり、今後委員会の立ち上げを検討することになった。ホームページの維持管理を業者への委託することは、現在の予算規模では困難である。そこで、アルバイトを依頼するなど案を検討したが、継続的に維持管理を行うには不安がある。今後、朝川前幹事に相談しながら、新しい管理体制を検討する。ニュースレター9号、10号をホームページに掲載できていないため、UJSSBメーリングリストを通じて加盟学会代表に配布し、そこから各加盟学会に配布を求めることになった。d) 日本産生物種数調査：各生物群ごとに日本産の種のリストが存在するかどうか、さらに調査を行う。e) タイプ標本データベース：今後もデータベースにデータの追加を依頼する。(4) 2007年度予算：2007年度予算案が示され、承認された。収入は分担金310,000円、受取利息10円、特別会計より100,000円、前年度繰越金1,033,137円、合計1,443,147円である。支出は総会・シンポジウム148,000円、事務経費50,000円、ニュースレター編集費50,000円、予備費1,195,147円、合計1,443,147円である。(5) 補助金・受託研究費等取扱規程：規程案が示され、承認された(下記を参照)。(6) その他：連合の今後の運営方針について審議した。a) 共催シンポジウム：今後2年間、生物教育学会と共催シンポジウムを開催することが決定しており、次年度の生物教育学会の大会は1月26-27日に名古屋地方で開催される。しかし、それとは別に、連合が主体となって東京でのシンポジウムを企画し、生物教育学会に参加を求めるべきである、との意見も出された。提案があれば今後受け付けることになった。b) 太平洋学術会議：4月15日がシンポジウムの締切である。連合として参加する場合は、「日本の生物の多様性はどこまで分かっているか？」などのテーマで行う案が提案された。しかし、演者の参加費・旅費の負担を含めて検討しなければならない点が問題である。今後役員会で参加の是非を決定することになった。c) 分担金：役員会の旅費、シンポジウムの講師の旅費、ホームページの維持管理に経費を十分にかけることができない状況であるため、分担金の値上げが提案さ

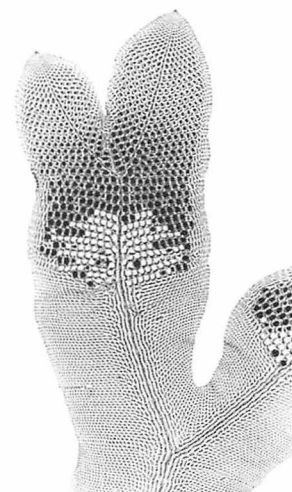
れた。一律2万円にする、学会の規模(会員数)によって金額を変える、などの案が検討されたが、1年間予備費の様子を見ながら審議を継続することになった。(7) 2008年総会の開催:総会は東京で2008年1月5日(土)または12日(土)に開催する。

[シンポジウム]

“生物の一生=生活環”の多様性を比較しよう

「生活環から見る生物の多様性」加藤雅啓(国立科博),「菌類の生活環と菌類分類学の特徴」細谷 剛(国立科博),「原生動物繊毛虫の生活環—二核性に由来する特異な有性生殖過程—」見上一幸(宮城教育大),「シダ植物の生活環とその特徴」今市涼子(日本女子大)・海老原淳(国立科博),「ライブイメージングから解き明かす被子植物の重複受精」東山哲也(東大),「コケ植物の生活環と特徴—その教育的価値を

中心に—」佐藤崇之(広島大),「海藻における生活環の多様性と進化」神谷充伸(福井県立大)。



学会・シンポジウム情報

第10回マリンバイオテクノロジー学会大会開催のお知らせ

第10回マリンバイオテクノロジー学会大会を下記の要領で開催予定としております。

大会日程 平成19年5月26日(土)～27日(日)
 会場 山形大学小白川キャンパス教養教育棟
 大会役員 大会会長 森澤正昭 山形大学理学部教授
 大会副会長 原 慶明 山形大学理学部教授
 実行委員長 木島明博 東北大学大学院農学研究科教授
 大会事務局 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
 山形大学理学部生物学科内
 第10回マリンバイオテクノロジー学会大会実行委員会
 Tel 023-628-4612, 023-628-4613
 Fax 023-628-4625
 E-mail marbiotech@sbiol.kj.yamagata-u.ac.jp
 懇親会 開催日 5月26日(土) 18:00～20:00
 場所 山形大学小白川キャンパス厚生会館

大会の内容

1. 一般講演(口頭発表, ポスター発表)
2. シンポジウム(一般)
3. 懇親会

※シンポジウムの企画を公募いたします。シンポジウムの企画をご希望の方は大会事務局までご連絡下さい。

発表形式

1. 口頭発表: 一般講演は質疑含み15分, 液晶プロジェクター使用

2. ポスター発表: 学生を対象とした優秀ポスターの表彰を予定

一般講演のセッション

1. 微生物, 2. 微細藻類, 3. 海藻・付着生物, 4. 魚介類, 5. 天然物化学・未利用資源, 6. バイオミネラルリゼーション, 7. マリンゲノム, 8. 環境・環境適応, 9. その他

発表申込の締め切り 平成19年3月16日(金) 必着

発表要旨の締め切り 平成19年4月20日(金) 必着

講演申し込み方法

発表希望の方は書式にしたがって, 申込者氏名・所属および連絡先, 発表希望セッション, 希望発表形式, 発表者氏名・所属略記(連名の方全員), 演題を明記の上, 申し込んで下さい。申し込みはメールまたは郵送で受け付けます。詳細は大会ホームページでご確認下さい。

参加登録方法

参加登録希望の方は書式にしたがって, 申込者氏名・所属および連絡先を明記の上, メールまたは郵送で申し込んで下さい。詳細は大会ホームページでご確認下さい。

第10回大会ホームページアドレス:

<http://www-sbiol.kj.yamagata-u.ac.jp/~jsmb/mbt2007/>

学会ホームページ:

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmb/>